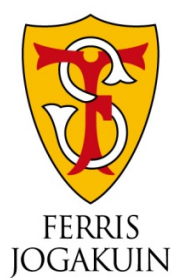


フェリス女学院

2015 年度事業計画書（概要）



2015 年度事業計画策定にあたって

フェリス女学院は、1870 年、アメリカ改革派教会の宣教師キダーによって横浜の地に設立されました。本年 6 月 1 日に、創立 145 年を迎えます。「キリスト教の信仰に基づく女子教育」を建学の精神とし、「For Others」を教育理念として掲げ、中学校・高等学校、大学において、教育・研究活動を展開してまいりました。

少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境が一層厳しさを増している中、建学の精神、教育理念を時代を超えて堅持するとともに、より良い教育を実践する取り組みを続けています。

フェリス女学院の教育の将来構想であるグランドデザインは、中学校・高等学校が 2013 年度に、大学も 2014 年度に、それぞれ理事会で承認されました。2020 年の学院創立 150 周年に向けて、建学の精神と教育理念に基づく教育をこれからの時代を実現しようとする構想であり、社会における存在意義を改めて確認するものでもあります。このグランドデザインを実現すべく、教育構想を具体的な計画として展開し、これを推進するための体制を整備することが、フェリス女学院の 2015 年度に取り組むべき最重要課題と言えます。

また、2012 年に着手した中高第二期工事は、7 月に新 2 号館が完成し、これに付随する校舎の一部改修工事を経て、年内に全工程が完了する予定です。

中学校・高等学校、大学ともに新たな時代に向け、一步を踏み出す節目の年になります。魅力ある教育・研究活動の実践、学生・生徒にとって安心・安全かつ快適な環境の整備、社会の変化に柔軟に対応しうる組織の整備と運営、中長期的な視野に立った財政計画等が必要であり、また学院を支えてくださるステークホルダーとの信頼関係を深めていくことも、今後より一層重要であると認識しています。

このような問題意識のもと、2015 年度事業計画を策定しました。教育を通じて社会に貢献することが私たちの果たすべき役割であることを教職員一人ひとりが意識し、フェリス女学院の教育・研究活動がさらに充実するよう、最大限努力してまいります。

2015 年 3 月

学校法人フェリス女学院
理事長 奥田義孝
学院長 大塩 武

フェリス女学院大学事業計画

大学では、2013-2016年度の4年間を単位とする中期計画（13-16PLAN）を策定している。

4年間を通じてつねに目指すべき最上位目標は、あくまでも、フェリス女学院の建学の精神である「キリスト教の信仰に基づく女子教育」と教育理念「For Others」のさらなる具体化・推進である。

その実現のため、中期計画では、「1.『建学の精神』『教育理念』の明確化」「2.安心・安全なキャンパスづくり」「3.受験生・学生に支持される大学」「4.大学の発展を支える組織体制の強化」の4点を基本方針とし、そのもとで単年度の事業計画を策定している。また、外部環境と大学に求められる社会的役割の変化に柔軟な対応するため、毎年度の事業計画策定と並行して中期計画自体の見直しも行っている。

同時に、フェリス女学院におけるこれからの高等教育の基本方針となる大学グランドデザインは、理事会の下に設置された「高等教育再編委員会」で検討を進めてきた。2014年度にその策定作業を終え、2015年度はその実現に向けた第1歩を踏み出すこととなる。そのため、2015年度は大学開設50周年の節目の年であるが、特別な記念行事等は行わず、大学グランドデザインの実現に向けた教学改革の推進に全学を挙げて取り組むこととする。

以下は、2015年度実施分の事業計画の抜粋である。

（1）「建学の精神」「教育理念」の明確化に関する取組

大規模総合大学がスケールメリットをいかした改革を進めるなか、本学のような小規模大学は「建学の精神」「教育理念」を明確に示すことで差別化を図り、特色ある教育によって、独自の役割とポジションを確立していくことが必要である。中期計画（13-16PLAN）では、「建学の精神」や「教育理念」をただ題目として論じるだけでなく、具体的な実践活動として展開し、その「良さ」や「意味」を学内外にアピールできる事業を積極的に展開していく。

キリスト教精神/For Others の実践

- ・ キリスト教に関わる科目の充実と教育プログラムの整備・推進
- ・ 交流体験で学ぶ For Others
- ・ 学内における宗教活動の位置づけの改善
- ・ 東日本大震災被災者支援プログラム
- ・ ボランティアに関する啓発・支援とセンター学生スタッフ育成プログラム
- ・ For Others の学びと実践～ボランティア活動の振り返り

女子大の特色をいかした教育・事業展開

- ・ 女子大ならではの教育プログラム推進とその長所の発信
- ・ 読書運動プロジェクト¹

ブランドの構築

- ・ 大学の教育研究に関する戦略的広報の展開

中期計画に基づく教学改革の推進

- ・ グランドデザインに基づいた全学教育プログラムの推進
- ・ 日本語日本文学科の教学改革プロジェクト
- ・ 国際交流学部の教学改革プロジェクト
- ・ 音楽学部の再建計画の実行

¹ 全学的に取り組んでいる読書推進活動。毎年テーマを決め、関連図書を重点的に読むプログラム。

(2) 安心・安全なキャンパスづくり

東日本大震災の経験を踏まえ、中期計画(13-16PLAN)では、首都圏直下型地震や地球的規模の環境変動からもたらされる自然災害を念頭におき、学生たちを安心して受け入れられる(子どもを安心して家から送り出せる)キャンパス環境の整備に取り組む。あわせて、食の安心・安全、持続可能な環境への配慮を行い、あらゆる面で安心・安全なキャンパスづくりを目指す。

キャンパス環境の整備

- ・ エコキャンパスの推進
- ・ 施設・設備の計画的な整備
- ・ 教育研究システムの運営管理
- ・ 学院基盤システムの運営管理
- ・ フェリスホールの維持管理

キャンパスの安全確保

- ・ 安心・安全なキャンパスづくり(大規模自然災害・防災対策、セキュリティ)
- ・ 緊急連絡システムの運営管理

食の安心・安全

- ・ 安心・安全な食の提供

学生生活支援体制の充実

- ・ バリアフリー化推進
- ・ 奨学金施策の拡充
- ・ 初年次1年間を通じた導入支援
- ・ 規模・特性をいかした学生支援体制の構築
- ・ 大学生活における心身の健康維持・増進支援
- ・ 学生厚生施設・キャンパスアメニティの充実

地域連携の推進

- ・ 山手の丘音楽コンクール
- ・ 地域連携ボランティアプログラム
- ・ 多文化共生社会に向けたボランティアプログラム

(3) 受験生・学生に支持される大学

『2018年問題』として18歳人口の減少期を目前に控えたこの時期、受験生・学生に真剣に向き合い、そのニーズにあった即効性のある事業を優先的に推進することが求められる。中期計画(13-16PLAN)では、従前どおりの事業を自動的に継続するのではなく、外部環境の変化と大学に求められる社会的役割の変化への柔軟な対応を考慮し、教学改革・学生支援・就職支援・国際化推進・施設設備改善などを積み重ねていく。在学生・保証人の満足度を高めることで、受験生からも支持される大学を目指す。

受験生の視点からの入試制度見直し

- ・ 入試出願方法の見直し
- ・ 適切な入試問題の作成
- ・ 入試関連情報の有効活用

受験生への広報の強化

- ・ 受験生を対象とした広報の充実

教育の充実

- ・ テーマ授業群の導入（国際交流学部）
- ・ 外部資金を利用した授業の展開（国際交流学部）
- ・ プログラム制の導入と科目ナンバリング概念²の導入（国際交流学部）
- ・ 音楽学部の教育・研究環境の整備
- ・ 社会変化に対応した「新しい時代の基礎教養」を目指して
- ・ 組織的なFD³によるよりフェリスらしい「健康・スポーツ」の構築
- ・ 自発的学修者育成のための履修情報提供
- ・ 語学教育の質を支える「担当者間コーディネイト」
- ・ 英語教育の効果測定とカリキュラム改善
- ・ ICTを活用した授業への対応、教育環境の標準化
- ・ 主体的に学ぶ力の育成～学生を鍛える大学へ～
- ・ 学期制度の見直し～集中と柔軟性がもたらす切れ目ない学び～
- ・ 語学集中学修の仕組みづくり
- ・ 学生のICTリテラシー向上支援
- ・ 学修支援の場としての図書館機能の充実

学修支援体制の充実

- ・ 新入生への学生生活導入支援
- ・ 新入生への学修支援～生徒から学生へ
- ・ 学修支援の仕組みづくり～あとひと押しによる成長の促しと中間層への働きかけ（何が必要か自覚させる）
- ・ 語学教育促進
- ・ メディア変換
- ・ 学務システム（GAKUEN）の運用管理
- ・ Ferris Passportの運用管理
- ・ 学修支援システムの構築・運用管理
- ・ 学修支援の仕組みづくり

キャンパスの活性化

- ・ 正課外活動の活性化支援

キャリア形成支援の充実

- ・ 就職支援の充実
- ・ アカデミック・スキル、ソーシャル・スキル、職業観の育成

国際化の推進

- ・ セメスター・アブロード⁴
- ・ 文学部日本語日本文学科の教育と研究の成果を世界に向けて発信するためのプロジェクト
- ・ グローバル人材育成のための海外派遣留学促進
- ・ 受入留学生を中心にした学内国際化推進

² ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。対象とするレベル（学年等）や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなる。（文部科学省中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」用語集より抜粋）

³ Faculty Development。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。（文部科学省中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」用語解説より抜粋）

⁴ 文学部英語英米文学科学生対象の留学プログラム。3年次前期にニュージーランドに留学する制度。

- ・ 異文化理解を通じた国際交流による課外活動活性化

研究活動の充実

- ・ 研究支援の強化と学内体制の検討
- ・ 機関リポジトリの運用

(4) 大学の発展を支える組織体制の強化

中期計画(13-16PLAN)では、今後の大学の発展を支える組織体制の強化について集中的に取り組む。教学の様々な戦略的事業を展開するにあたり、教員とともに大学運営の企画・立案をになう事務組織の職能開発の推進や適正な人員配置など、大学の組織体制の強化は重要事項である。次に、大学を支える様々なステークホルダーに対し説明責任が果せるよう、実質的な自己点検・評価の推進を継続して行う。さらに、事業計画と予算編成の連動により、経常的支出の抑制・戦略的事業に対しての重点的な予算配分を行うなど、大学財政の健全化を継続して図る。

大学組織の機能強化

- ・ 大学組織再編に関する検討
- ・ SD⁵の推進
- ・ ペーパーレス化の推進
- ・ 業務効率向上のためのシステム開発

財務状況の健全化

- ・ 教育充実資金の拡充

アカウントビリティの確保

- ・ 保証人に対する就職情報の説明
- ・ 大学基準協会での認証評価受審と自己点検・評価の実質化推進

同窓会・卒業生との連携強化

- ・ 同窓会活動の支援

奨学会との連携強化

- ・ 父母等保証人との連携強化
- ・ 奨学会活動の支援

生涯学習の推進

- ・ オープンカレッジの充実

⁵ Staff Development。事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援まで含めた資質向上のための組織的な取組を指す。(文部科学省中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」用語解説より抜粋)

フェリス女学院中学校・高等学校事業計画

急速に進む情報化社会と国際化社会の中で人々の生活領域は飛躍的に広がり、多様な価値観が生まれては消えていく。そうした中であって、キリスト教学校は時代と場所を超えた普遍なるものに基盤を置いて教育を行う。それが校風を形成し、その継承が伝統となる。そして本校の場合、それが「キリスト教」と「女子教育」である。同時に学校には常に次代を見据えた教育内容とそれを実践できる校舎・施設設備が求められる。その場合、校舎等がそこで目指される教育理念をも具現化したものであればより意義がある。

ところで、本校の校舎は、1929年、関東大震災後に再建された時以来、キリスト教学校として、「Solid」、「Straight」、「Beautiful」を建築理念としてきた。「Strong (Solid)」すなわち校舎が堅牢のごとくフェリスに学ぶ生徒は堅くキリスト教信仰に立つこと。「Sincere (Straight)」すなわち校舎が直線的に配置されているのは、生徒もまた神に忠実にして自らに正直であること。そして校舎再建に寄せて下さった多くの人々の「Beautiful」なる心、すなわち善意を覚え、生徒自らがそうした思いに応えうる人格者となるように努めること。建築理念はそうした教育理念でもあった。

2002年の現1号館の建直しの際も、また第二期工事⁶として、2013年より着工し2014年8月に落成した新体育館並びに2015年6月竣工を目指す新2号館もそれらを継承したものである。中高グラウンドデザインとして明確になった将来構想を実現させていく中で、1号館、12号館の一部改修工事を経て2015年度内には全工程が完了し、これによって山手178番を中心とする本校の将来の教育環境の整備が一段落する。

2015年度は、現在地に最初の校舎が完成してちょうど140年の節目の年でもある。中高6年間の新教育課程も完成する。2015年度はその意味でも新しいフェリスの第一歩となる年である。従ってこれからますます問われるのは教育内容そのものであろう。これらを踏まえて、2015年度に予定する取り組みは以下のとおりである。

(1) 教育基盤であるキリスト教教育の再確認

日々の礼拝並びに修養会などの各種宗教行事を通して、生徒一人ひとりに対してフェリスに学ぶ意義、すなわちキリスト教信仰に基づく自らの人格形成にあることの自覚を促す。

保護者に対しても、本校の教育機関としての意義と役割について十分な理解を得る。

- ・ 生徒：パイプオルガニスト養成プログラムの継続実施
新2号館完成後の校舎内配置変更に対応した礼拝等日々の活動の継続
- ・ 保護者：校舎建設過渡期の状況を踏まえた礼拝への参加、聖書教室の充実

(2) 新教育課程の実施とその対応（教職員体制も含む）

本校の教育課程は、学習指導要領に準拠するとともに、本校独自の教育として、広く深い教養を有し、しかも将来の高等教育等につながる学習に生徒が自主的に取り組めるようになることを最終目標とする。

新教育課程の特色は、将来の学問の基礎となるためにできる限り学ぶ範囲を広げ、しかも一つ一つを主体的に深く学んでいくという、従来の「教養主義」をベースに、あらたに「緩やかなコース制」を導入するとともに、本校独自の科目も設けた点にある。より具体的には、高等学校第2学年から選

⁶ 新体育館及び新2号館の建築工事。新体育館は2013年7月着工、2014年8月竣工。新2号館は、2014年5月着工、2015年6月竣工予定。

択科目の増加、開講人数の基準も可能な限り少人数に設定するなど、さらにきめ細かい学習内容となる計画である。

新教育課程への対応には、併せて、適切な人数の専任教員の確保が必須となる。本校の教育の担い手にふさわしい教員の採用、配置も計画する。同時に中高事務室を担う職員体制の見直しも検討し、生徒の学校生活及び学習支援体制を充実させる。

- ・ 新教育課程への対応
- ・ 教職員体制の整備

(3) 安全対策の徹底

危機管理整備を継続して行い、安心して学べる教育環境を整える。併せて、学院本部と大学を含む山手キャンパス全体の連携を図り、必要に応じた合同の訓練実施を計画するなど、山手地区としての一体感を持った対応を目指す。特に第二期工事期間中は、生徒の安全面にこれまで以上の配慮が必要となる。

また保護者への緊急連絡体制のなお一層の整備・充実を図り、迅速かつ正確な緊急情報の伝達体制を構築する。

- ・ 工事過渡期に対応した避難経路の確保と実地訓練の実施
- ・ 全教職員による備蓄品保管、防災設備等の確認
- ・ 全教職員を対象とした救急救命訓練の実施
- ・ 緊急連絡網、ホームページ等を活用した迅速かつ正確な連絡体制の確立

(4) 教育情報の発信

受験生に対する学校情報（学校説明会、学校見学会、フェリス祭などの学校行事告知並びに日常の学校生活の紹介等）や、在校生保護者への各種学校行事予定や実施報告、緊急時の学校からのお知らせなどをきめ細かく適切なタイミングで発信し、本校の教育活動の正確な理解を得ることを目標とする。そのための適切かつ総合的な情報発信体制を確立する。

- ・ ホームページ掲載内容の充実に向けた見直し
- ・ 受験生対象学校見学会等の再検討
- ・ 学外での広報企画（県私学展等説明会）への参加
- ・ 入試結果分析を踏まえた今後の募集広報（発信する情報の内容等）検討

(5) 第二期工事の実施と財政基盤の充実

本校にとって校舎とは、生徒一人ひとりにとっての「学びの場」、「成長の場」、そして日々の「生活の場」である。その観点から、校舎並びに施設・設備は、本校の教育理念が具現化されたものであり、「中高グラウンドデザイン」に基づくそうした構想のもと、新体育館並びに新2号館は設計したものである。

新2号館建設及び1号館、12号館の一部改修が完成した際には、これまではなかった施設・設備の整った教育環境を通して、生徒の自主的な活動をなお一層育み、本校が新たに目指す独自のきめ細か

い指導が可能となる。それを支える財政基盤の恒常的な安定を目指す。

- ・ 新2号館建設工事（2015年6月竣工予定）
- ・ 12号館一部改修工事（2015年8月完了予定）
- ・ 1号館一部改修工事（2015年9月完了予定）
- ・ 3号館、5号館解体工事（2015年12月完了予定）
- ・ 生徒に工事過渡期のストレスが極力かからない学校生活を実現させる学校運営

（6）教育充実資金その他の募集活動

「中高グランドデザイン」に基づく今後の教育活動を踏まえて、新入生の保護者に対して、施設・設備の充実と整備、更新に充当する資金として、教育充実資金及びその他の寄付金募集活動を展開する。

- ・ 2015年度目標金額 4500万円
- ・ 協力依頼のタイミング・寄付者の振込方法等の検討（継続）

学院基盤の強化に向けた取組

フェリス女学院の教育の将来構想であるグランドデザインは、2013年度に中高が完成し、大学も理事会のもとに設置された「高等教育再編委員会」で検討を重ね、2015年2月に理事会に対し答申を提出した。これを受け、2015年度はグランドデザインで描かれた改革を着実に実現していくための体制整備に着手する。

また、18歳人口の減少、グローバル化等、多様化する社会情勢にも対応していくため、教育・研究活動における改革とともに、管理・運営体制の見直し、経営・財政面の強化のために次の事項に取り組み、フェリス女学院に対する社会からの要請に応えていく。

- ・ ステークホルダーとの信頼関係の構築、ブランド力の向上のための情報発信
- ・ 学院運営体制の整備による公正かつ透明性の高い運営の実現
- ・ 組織の強化、活性化に向けた人事労務体系・諸制度の整備と職員力向上に向けた取組
- ・ 中長期的な計画の下での学院全体のインフラ整備の推進
- ・ 安定的な財政基盤維持のための、中長期的な財政計画の策定と収入の多角化に向けた取組
- ・ 教育・研究・管理運営に必要な情報環境の整備と情報セキュリティに対する基本運用方針の策定

(1) 社会への情報発信

ステークホルダーへの情報発信を積極的に行うことによって、フェリス女学院の教育を理解していただき信頼関係を構築する。また、大学・中高と連携して戦略的広報を展開することによって、フェリス女学院のブランド価値を高める。

1 『学院広報 ALL FERRIS』の発行

2012年にリニューアルを行った際に明確化された「All Ferris、一体感の醸成」を目的に、フェリスの教育理念である“For Others”をキーコンセプトとして、広くフェリスに連なる人々の意識共有を促進するための広報誌として機能させる。

また、学外関係諸団体等に対しての学校法人としての広報ツールとしても引き続き活用していく。

- ・ 紙面構成、取材方法、デザイン等の見直し
- ・ 企画、発行体制における学内連携の強化

2 学院創立150周年記念事業の推進

2020年に学院創立150年を迎える。この節目を学院内外の関係者が祝う場を設けるとともに、従来から学院の教育活動を理解くださり、大きな支援をいただいている関係者に対して感謝を表す。そして、社会に向けて、フェリス女学院の存在意義と今後の構想を示す。

- ・ 実行委員会の設置と基本方針の策定
- ・ 企画の選定

3 『学院150年史』編纂

150周年記念事業の一環として、『フェリス女学院150年史』を完成させ(2020年刊行を目指す)フェリス女学院の教育の歩みを明らかにし、後世に伝える。これに並行して編纂に必要な資料の収集、整理を行い、『フェリス女学院150年史資料集』を順次刊行する。

- ・ 『学院 150 年史』 編纂
- ・ 『フェリス女学院 150 年史資料集』
- ・ 資料収集
- ・ 資料保管体制の構築

(2) 組織体制の整備と適切な運営

学校をめぐる状況の変化に適切に対応し、様々なリスクに機動的に対処できる体制を構築する。法令遵守による適正な業務遂行の徹底、安全対策の徹底等、学院全体の管理運営体制を整備することによってガバナンス体制の維持・強化を図り、公正かつ透明性の高い運営を実現する。

1 組織体制の見直しと業務改善

教育の将来構想であるグランドデザインを実現していくための運営体制及び事務組織を整備するとともに、内部統制の仕組みを構築することによって運営の適切性を確保する。

グランドデザインの実現に向けた事務組織の整備

業務合理化・効率化の推進

- ・ 経理業務効率化プロジェクト（継続）
- ・ 印刷業務委託の見直し（継続）
- ・ 消耗品購入、自動販売機設置業者の一元化の検討（新規）

人事手続ガイドの整備と公開（継続）

2 法令等遵守による適正な業務遂行の徹底

社会性・公共性の高い教育機関として、関係法令や学内規程を遵守した適正な業務を行う。また、運営と規程との間に齟齬が生じないように、継続的に規程の整備を行い、コンプライアンス意識の浸透を図る。

- ・ 学院諸規程の整備

3 リスクの評価と対応

学校法人を取り巻く環境には様々なリスクが存在する。天災、情報システムの事故、不正行為の発生、情報漏洩等、学院運営に影響を及ぼす可能性がある事象を把握し、リスクの軽減のための対応や万が一の事態に備えた発生時対策など、学院全体を網羅する実効性の高い制度を構築する。

- ・ 指揮命令系統の明確な危機管理制度の構築
- ・ リスク時の行動指針の検討

4 内部監査の実施

学院の諸活動の遂行状況を適法性、合理性、効率性の観点から公正かつ客観的な立場で調査・検証し、改善のための助言、提案、支援等を行うことにより、学院の健全かつ適切な運営を確立する。

- ・ テーマ監査の実施
- ・ 公的研究費の運営、管理に係るモニタリング

(3) 人事制度の整備

教職員が安心して働くことのできるよう諸制度を整備し、また、学院が求める人材を育成・活用できる体制を構築することによって、教職員一人ひとりの意欲を高め、組織の活性化を実現する。

1 人事労務体系・諸制度の整備

働く意欲のある全ての人々が能力を発揮し、安心して働き続けられる社会の実現に向けて、現在、国では様々な関係法令の改正や整備が進められている。学院においても、多様な働き方で学院に連なる教職員一人ひとりが、やりがいを持って働き自身の生活も大切にできるよう、法令順守の下に人事労務体系と諸制度の整備を行う。

- ・ 教職員の健康保持のための支援
- ・ 給与関連業務の体制整備と運用
- ・ 有期雇用契約者に関する制度の見直し
- ・ 人事制度の検証に即したデータ等の整備

2 職員力の向上に向けた取組

学院運営力の強化を目的として、その中心的な担い手である職員の力(=資質・能力)の向上を図る。まずは、フェリス女学院において職員がどのような役割を果たすべきかを「目指すべき職員像」としてまとめあげて共有し、今後全ての人事施策の拠り所とする。また、そこから職員に必要となる知識やスキルを導き出し、その習得のための具体的な研修体系とプログラムに落とし込んで人材育成を推進していく。

- ・ 「目指すべき職員像」のあり方の検討
- ・ 職員研修の実施

(4) 施設設備の整備・改修計画

中長期的な視点で学院全体のインフラ整備を推進し、教育研究活動の発展を支える安心・安全かつ快適な環境を実現する。

■ 大学

- ・ 緑園7号館大規模改修
- ・ 緑園8号館内装一部改修
- ・ 山手フェリスホール一部改修・山手5号館解体工事

■ 中高

- ・ 新2号館建設工事
- ・ 1号館・12号館改修工事(新2号館建設後の教室等配置変更に伴う改修工事)
- ・ 旧体育館・3号館解体工事
- ・ 12号館空調(冷温水式)オーバーホール
- ・ カイパー記念講堂設備整備
- ・ コンピュータ教室・LL教室設備整備

(5) 財政基盤の強化

中長期的な視野に立った財政計画のもと、単年度の予算編成と執行管理を適正に行うとともに、財源の多元化を推進し、将来に向け安定的な経営基盤を確立する。

1 中期計画に基づく健全財政の維持

第二期経営改善計画(2011～2015年度)の後継となる中期計画を策定し、単年度の予算編成と執行管理を適正に行い収支均衡を維持することによって、グランドデザインを実現し得る財政基盤を確立する。

- ・ 大学、中高それぞれのグランドデザインに基づく中期計画の策定

2 第2号基本基金⁷組入計画(大学)

大学キャンパス施設設備拡充整備を目的として、計画的に第2号基本基金として組み入れる。2015年度まで毎年度5000万円、2016年度から2018年度まで毎年度1.5億円、総額13.7億円を組み入れる。

- ・ 大学キャンパス施設設備拡充整備資金計画 5000万円組入

3 収入の多角化に向けた取組

学生生徒等納付金の安定確保と併せて、補助金・寄付金等による収入の多角化に取り組むことによって、財政基盤を強化し、教育・研究活動及びそれを支える環境等の充実を図る。

- ・ 学院横断型プロジェクトによる戦略的寄付制度の検討

(6) 情報環境の整備

教育・研究・管理運営に必要な情報環境を整備・提供する。

1 情報ネットワークの管理・運用体制の整備

現状に応じた学院全体の情報システム・ネットワークシステムの運営方針、情報セキュリティに対する基本運用方針を策定し実行する。情報漏洩、ネットワークセキュリティ事故等防止のための平素の諸対応をルール化・徹底することにより、学院全体のユーザー側の情報セキュリティに対する意識の強化と普及に努める。

- ・ 情報セキュリティに対する基本運用方針の策定
- ・ 情報セキュリティに対する意識向上のための取組の実施

⁷ 学校法人が新たな学校の設置または既設の学校の規模の拡大もしくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額。



学校法人
フェリス女学院

〒231-8660 横浜市中区山手町 178

TEL 045-662-4511(代表)

学院 HP 公開版